

日本では「日本には、「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」という言葉があります。年明けから年度末にかけての時間の流れが、あまりにも早く感じられることを表した、昔からの言い回しです。本年度もあとひと月あまりとなりました。

■ 「行く」「逃げる」「去る」季節で大切なこと

❖ 日本では、「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」という言葉があります。年明けから年度末にかけての時間の流れが、あまりにも早く感じられることを表した、昔からの言い回しです。まさに今、私たちはその真ん中にいます。気がつけば一月は足早に過ぎ、二月もまた、静かに、しかし確かに私たちの手の間をすり抜けていこうとしています。

❖ そんな二月を、学校生活の中でどのように過ごしてほしいかという願いをお話します。それは、「焦らず、比べず、今の自分を大切に作る月」にしてほしいということです。確かに2月は年度の締めくくりとして行事やまとめに追われる時期ではありますが、児童生徒の皆さん一人一人が、この一年で積み重ねてきた歩みを、そっと振り返る時間も同じくらい大切にしてほしいと考えています。また、そのような実態を保護者の皆さんにも知ってほしいと思います。

❖ 日々の学校生活の中で児童生徒たちは本当にたくさんを経験しています。できるようになったこと、勇気を出して挑戦したこと、思うようにいかず悩んだことなどを私たち教職員は日々の学校生活で見えています。そして、その一つ一つが確かな成長につながっていることを、心から感じています。児童生徒たちは決して一人で歩いているわけではありません。いつも周りには、静かに目を配り、必要なときには手を差し伸べるクラスメイトや仲間とともに歩んでいます。



■ 三月を迎える準備ができる二月の役割

❖ 三月には卒業式を迎えます。卒業を控えた児童生徒にとって、そして在校生にとっても、ロンドン日本人学校で過ごすことのできる日常には限りがあります。「三月は去る」と言われるように、時間はあっという間に次の季節へと進んでいきます。だからこそ、今この学校で共に過ごす一日一日を、慌ただしく消費するのではなく、噛み締めるように大切にしたいと思っています。

❖ 2月28日には、学校近隣の West Acton のコミュニティセンターで山崎エマ監督のドキュメンタリー映画「学校～それは小さな社会～」の上映会を予定しています。この映画の最大の見どころは、日本の小学校が「学びの場」とであると同時に、「社会を生きる練習の場」として機能している姿を、ありのままに映し出している点にあります。掃除や給食、係活動、話し合いといった日常の営みの中で、児童生徒たちは役割を担い、他者と協力し、時には意見の違いに向き合います。その一つ一つが、思いやりや責任感、公共心を育てる大切な学びとなっています。また、誰かが失敗しても、周囲が支え、チャレンジすることが自然と組み込まれていることも、日本の教育の大きな特長です。

❖ 本作は、結果よりも過程を大切にし、児童生徒を信じて任せる日本の教育の素晴らしさを、静かで温かなまなざしで伝えてくれます。私たち大人にとっても、「学校とは何か」「児童生徒を育てるとはどういうことか」を改めて考えさせてくれる作品です。ロンドン日本人学校は「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と言われる忙しい時機の中だからこそ、児童生徒たちが安心して過ごせる居場所であり続けたいと思います。ここで過ごした時間が、児童生徒たちの心の中で、これから先も温かく息づいていくことを願いながら、私たち大人は、これからも変わらず、そっと見守り続けていきます。



= ロンドン日本人学校ニュース（2月号） =

中学部奉仕委員会の小中学部交流会

1月21日から23日までの昼休み、中学部奉仕委員会の企画による小・中学部交流活動が行われました。本活動は、遊びを通して学年を越えた関わりを深め、中学部生徒の思いやりの心を育むとともに、学校全体のつながりを強めることを目的としています。ドッジボールや伝言ゲーム、「だるまさんが転んだ」などの遊びは、生徒たちが話し合いながら準備しました。当日は、中学部生徒が優しく声をかけたり、分かりやすくルールを説明したりする姿が見られ、小学部児童も安心して笑顔で活動に参加していました。学年を越えた交流により、互いの理解が深まり、校内に温かな雰囲気広がる時間となりました。今後もこのような交流を大切にしていきたいと思ひます。



令和7年度3学期 授業参観・学級懇談会

1月28日から30日にかけて小学部・中学部において3学期の授業参観を実施しました。寒さの厳しい中ではありましたが、多くの保護者の皆様にご来校いただき、児童生徒たちの学校での学びの姿をご覧いただきました。ご参加ありがとうございました。

小学部では、学年ごとに発達段階に応じた学習や発表が行われ、調べたことを伝えたり、これまでの成長を振り返ったりする姿が印象的でした。中学部では、体育での仲間と協力する姿や、職場体験で得た学びを自分の言葉で発表する姿から、心身ともに成長した様子が感じられました。保護者の皆様からは、学校での姿に成長を実感したとの声が多く寄せられました。



「小学校～それは小さな社会～」

映画上映会のご案内



本作は、日本の小学校の日常を丁寧に描いた作品で、昨年度のアカデミー賞（第96回）短編ドキュメンタリー部門のショートリストに選出され、世界から注目を集めました。

掃除や給食、話し合いなど、何気ない学校生活の中に、日本の教育が大切にしてきた「人とともに生きる力」がどのように育まれているのかが、温かなまなざしで映し出されています。

当日は山崎エマ監督からのビデオメッセージもあるとのことですのでお楽しみにしてください。

●日時

令和8年2月28日（土）16時00分～

●場所

West Acton Community Centre

●住所

Churchill Gardens, Acton, W3 0JN



【注意】

- 当日の概要やチケットの購入、より詳細情報については、上図にあるQRコードより読み取りをしてください。
- この上映会はロンドン日本人学校の学校行事ではありませんので、各ご家庭でご自由にご参加ください。

令和7年度ロンドン日本人学校 学校・評価アンケートの分析結果について

ロンドン日本人学校

1. はじめに

このたびは、令和7年12月2日～9日までの期間で、学校・教育評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。多くの温かいご意見から、本校の取組への信頼と期待を感じております。結果を真摯に受け止め、今後もよりよい学校づくりに努めてまいります。

2. 保護者回答の分析

本アンケートは回収率90.7%と高く、保護者の皆様の学校教育への関心とご協力の大きさがうかがえます。

全体として肯定的な評価が多く、本校の学校運営や教育活動が概ね良好に受け止められている結果となりました。特に、たよりやストリーム、Google クラスルームを活用した情報発信や連絡体制、安全面への取組、教職員の連携や丁寧な対応について高い評価をいただいております。

一方で、英語・英会話や英国社会理解、また学校生活の感じ方については、十分に成果を実感できていないとの声も見られました。これらの結果を学校として真摯に受け止め、保護者への分かりやすい情報提供や、児童生徒一人一人に寄り添った支援の充実に、今後も努めてまいります。



3. 児童生徒の回答分析

本アンケートは回収率91.5%と高く、児童生徒が学校生活や学習について真剣に振り返っている様子がうかがえます。

全体として肯定的な評価が多く、落ち着いて学習できる環境や、教職員が協力して指導にあたっている点、行事や学習を通じた成長の実感などがうかがえました。

一方で、英語力や英国社会の理解、学校生活の楽しさについては、十分に実感できていない児童生徒も見られました。これらの声を学校として真摯に受け止め、一人一人に寄り添った指導や、学びの実感を高める工夫を今後も重ねてまいります。



4. まとめ



今回の学校・教育評価アンケートでは、保護者・児童生徒ともに高い回収率が得られ、本校の教育活動に対する関心と率直な意見が多く寄せられました。

全体として、学校運営や学習環境、教職員の取組に対して肯定的な評価が多く、本校の教育活動が一定の成果を上げていることがうかがえます。

一方で、学習の実感や学校生活の感じ方には個人差があり、改善すべき課題も明らかになりました。学校としてこれらの結果を真摯に受け止め、今後も保護者・児童生徒の声を生かしながら、よりよい学校づくりに継続して取り組んでまいります。